

経営比較分析表／団体全体（平成30年度決算）

山口県

【事業概要】

業務名 法適用	業種名 工業用水道事業	現在配水能力(合計)(m ³ /日) 1,710,050	類似団体区分 大規模	施設数 14	1日平均配水量(m ³) 1,043,900
資金不足比率(%) -	自己資本構成比率(%) 72.4	給水先事業所数 125	契約水量(m ³ /日) 1,580,310	管理者の情報 自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

○経常収支比率は、前年度に比べ自主節水減免の増に伴う減収等により減少しているものの、100%以上であり、給水収益以外の収入への依存も低く、経営の健全性は確保されている。

○累積欠損金比率は、0%であり、経営の健全性は確保されている。

○流動比率は、100%以上であり、前年度に比べ長期貸付の返還等により増加し、経営の健全性は確保されている。

○企業債残高対給水収益比率は、全国平均より高く、経年的には横ばいとなっている。これは、老朽化・耐震化対策の推進に合わせ企業債を発行しているためである。

○料金回収率は、前年度に比べ自主節水減免の増等に伴う減収等により減少しているものの、100%以上であり、経営の健全性は確保されている。

○給水原価は、前年度に比べほぼ横ばいであり、全国平均より低く、効率的な経営が行われている。

○施設利用率は、前年度に比べ自主節水の増等による配水量の減により減少しているものの、全国平均より高く、施設規模は適正である。

○契約率は、100%に近く、また全国平均と比較しても高い水準であり、適切な規模の投資ができています。

2. 老朽化の状況について

○有形固定資産減価償却率は、全国平均より低いが、上昇傾向にあり、施設の老朽化に伴い、保有資産が法定耐用年数に近づきつつある。「工業用水道事業施設整備10か年計画（2019～2028）」に基づき、計画的かつ効率的に施設の更新を行っていく。

○管路経年率（隧道を含む）は、全国平均を下回っているが、上昇傾向にある。これについては、「工業用水道事業施設整備10か年計画（2019～2028）」に基づき、計画的かつ効率的に更新を行っていく。

※隧道を除く管路経年率は、40.1%。

○管路更新率（隧道を含む）は、全国平均を下回っている。これについては、「工業用水道事業施設整備10か年計画（2019～2028）」に基づき、計画的かつ効率的に更新を行っていく。

※新たに布設した管で布設替に伴い布設した管路延長を計上。

全体総括

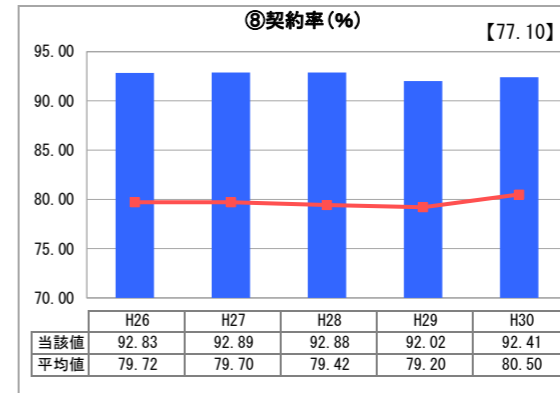
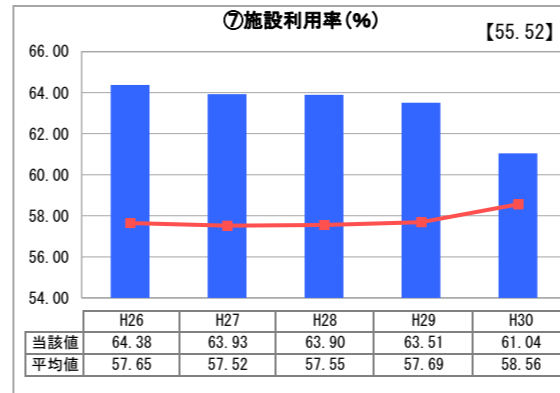
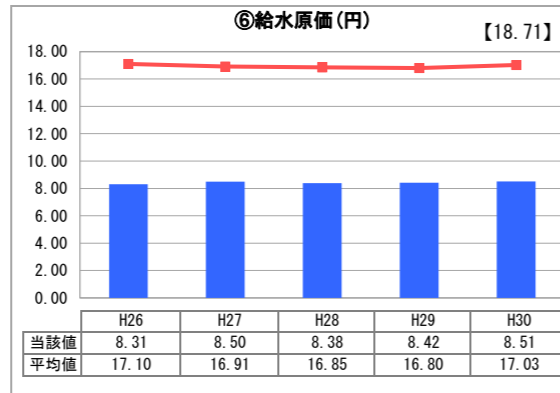
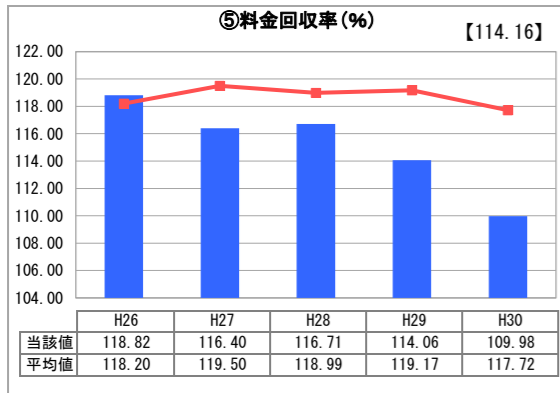
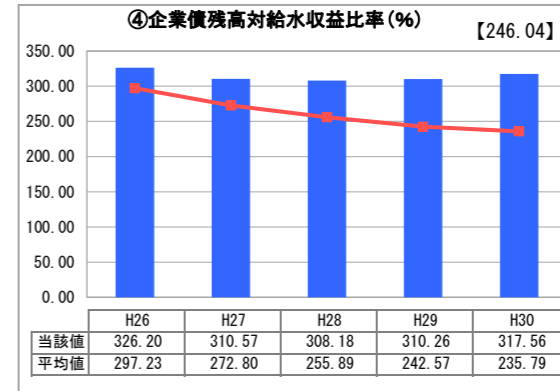
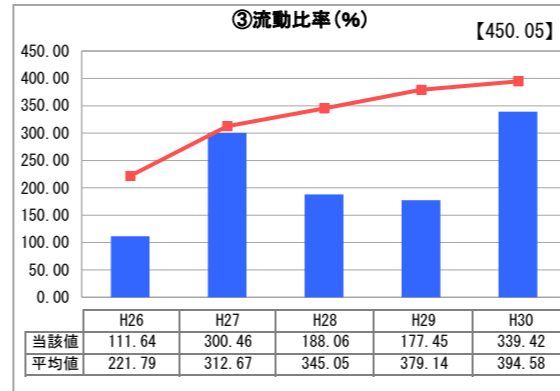
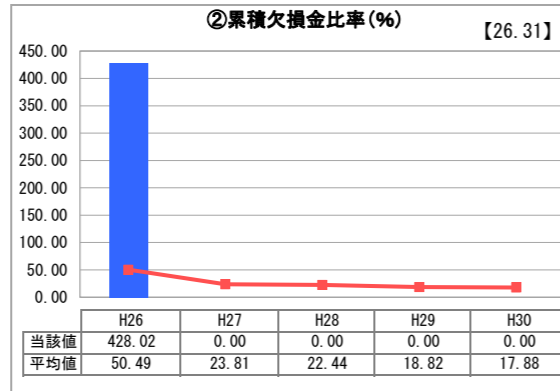
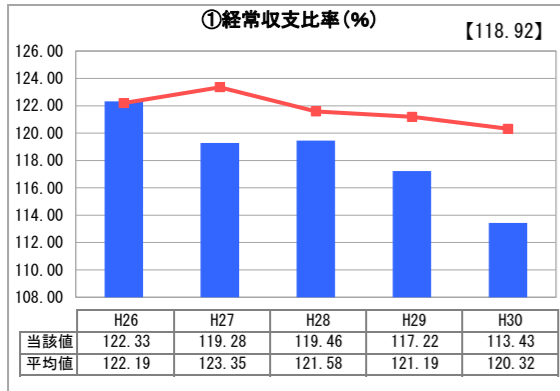
○指標の分析からは、これまでのところ、経営は堅調に推移している。

○当該期間中、「第3次経営計画（H25～H30）」の収支計画に基づき経営の健全化・効率化を推進してきたが、H30年度に第4次経営計画（2019～2028）を策定し、経営比較分析表の一部指標を経営管理指標に新たに取り入れるとともに、安定供給体制の強化や老朽化・耐震化対策を計画的かつ効率的に行うこととした。

○企業債については、老朽化・耐震化対策による支出の増加が見込まれるが、新規企業債発行の抑制と着実な償還により、計画的な企業債残高の増の抑制を図っていく。

○「工業用水道事業施設整備10か年計画（2019～2028）」に基づき、計画的かつ効果的な投資を行うとともに、新技術、新工法の導入や効率的な施工方法の採用等で工事コストを削減し、経費支出の抑制に努めていく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

